

事業名

地域で支える 田原力

目標

教育力を高め、地域の力が子どもたちに生きる地域を目指す**1. 取組の視点**

田原では豊かな自然や古い文化が残され、大切に守られてきている。幼稚園、小中学校は、児童生徒に「ふるさとや自然を愛する心を育てる」「地域に伝わる文化や伝統を守り伝える」ことで、「豊かな心と確かな学力を身につける」になると考える。そのため、地域住民が学校教育に深く関わる必要がある。

また、地区内には山や川、池もあり自然にあふれているが、ほっておくと雑草や樹木が伸びて歩道に影響が出るほど成長する。人家が点在するため、児童生徒の登校にも不安がある。子どもたちが安全に学校教育を受けられる環境を整え、今まで以上に学校力、地域力、教師力をアップさせていきたいと考える。

2. 取組の概要**【環境整備支援活動】**

田原中学校は田原小学校と小中一貫校であり田原幼稚園も隣接しているため、敷地が広く高低差も大きくなっている。敷地内には、雑木林もあり自然にあふれた学校であるが、ほっておくと雑



草や樹木が伸びて学習活動に影響が出るほど成長する。そのため学校全体の整備作業として「どんごが丘整美作業」を行っている。昨年は、8月22日(日)に実施し、児童生徒全員と保護者、地域教育協議会、有志の方々80名ほどの協力を得て行

った。午前中の作業だけでほとんどの樹木の選定や雑草の刈り取りが行われた。

【学習活動支援活動】

文化遺産に学び、地域の歴史と伝統のよさに気づき、自分たちの町を愛し、郷土に暮らすことに誇りと喜びを感じることでできる子どもの育成を目指している。そのためにも、教員だけでは教



えきれない地域に伝わる文化や伝統を次世代に受け継ぎ、伝えていくためにも地域の力は欠かせないと考えられる。田原地区には、伝統芸能保存会があり、その方がたを学校にお招きし、田原幼稚園、小中学校合同で祭文踊り・千本づき(餅つき)など地域に伝わる文化や伝統を子どもたちに伝えている。

3. 成果と課題

幼稚園、小中学校は昔から地域に支えられた学校であり、大きな変化は生まれていないかも知れないが、地域の方々に「学校づくりへの意識」「信頼関係」「教育の内容」が深まったように思われる。来年度に向けての課題として、現在の事業は特定の方々に依存している。この方々は、地域でも民生委員やスポーツ協会の役員など、多くの役職をかねておられることが多い。地域の活動も多く負担が大きくなっている。状況や年齢も考えれば、今後の活動を見越してさらに多くの人材の確保が必要となってくる。

事業名

輝け小中一貫校 TAWARA

目標

個に応じた指導法の研究を進め、総合的な学力の向上を図る**1. 取組の視点**

平成 17 年にスタートした本校の小中一貫教育も、今年度で6年目をむかえた。この間、学校教育目標として「9年間の連続性・継続性を生かした一貫教育を行い、豊かな心と確かな学力を身につけた世界にはばたく人間を育成する」を行ってきた。昨年度より、平成 23・24 年度に実施される新学習指導要領に対応した小中一貫教育を進めてきた。奈良市のパイロット校として実践をすすめてきたが、今後さらに小中教員の連携・協力・意思統一をはかりながら、更に効果的な指導を目指して研究・研修をすすめていく必要がある。

小中一貫教育校の9年間の長いスパンの中で、個々に応じた指導法の研究をすすめる児童生徒に総合的な学力を身につけさせることが大切である。

2. 取組の概要**【豊かな心を育てる取組】**

前中後期の各ブロックではモデルを持つことを意識した活動を行っている。前期ブロック(1～4年生)では4年生がリーダーとなり、1～3年生の身近な目標となっている。同様に中期ブロック(5～7年生)では7年生が、後期ブロック(8・9年生)では9年生がリーダーとして各ブロックの



諸行事を始め、日常生活のあらゆる場面で活躍している。ブロックの枠をはずした異年齢集団による活動として、縦割り清掃やうたごえ集会、学校行事である幼小中合同運動会、音楽発表会などがある。また、児童生徒会活動や部活動は5年生から参加できるようになっている。

【確かな学力を培う取組】

英会話科は1年生から始め楽しみながら英会話を学習し、実践的なコミュニケーション能力を身に付ける。5年生からは外国語科で、英会話科において蓄えた音声を文字・英文へとつないでいる。情報科では3年生から6年生までに情報モラル・マナー・スキルの基礎基本を定着させ、7年生からはそれに基づいて応用、発展へとつなげていく。郷土「なら」科は「なら」を知り、愛し、誇りがもてる児童生徒の育成を図ることをねらいとしている。1・2年生の生



活科での田原の町探検にはじまり、3・4年生の「総合的な学習の時間」での田原のお茶、奈良晒や祭文踊りの学

習を経て、5～7年生からは田原から奈良に視点を広げ、8・9年では発信を目指す。また、音楽では1年生から中学校の音楽教員が授業を担当している。算数、理科、図工や体育、情報科、郷土「なら」科でも小学校担任と中学校教科担任の協力態勢をとっている。

3. 成果と課題

小中一貫教育校としてゆるやかな接続や小さなステップなど、子どもたちの生活や学習のよいリズムは確立してきたが、新学習指導要領の下に新たな継続性を目指さなければならない部分が見えてきた。小規模校ゆえの問題点として、子どもたちの固定化された関係、教職員の異動による引き継ぎ等の学校経営上の問題などが今後、克服すべき課題である。来年度は仮称「田原ありがとう集会」として、お世話になっている地域の方を招待して感謝する会を催す。

事業名

大好き TAWARA

目標

自然豊かな田原を愛し、伝統文化を次世代に引き継ぐ**1. 取組の視点**

田原小学校は、まわりを里山と茶畑と田畑に囲まれた落ち着いた地域である。全国で唯一「祭文」が残されている地区でもある。室町時代に始まった「祭文」には「語り」と「音頭」があり、「語り」は浪花節の元祖だとも言われ、「祭文」は、奈良県の無形民俗文化財に指定されている。伝統や文化だけでなく自然環境もすばらしく、カンヌ映画祭でグランプリに輝いた河瀬直美監督の「殯の森」のロケ地になったのも有名な話である。このように、田原では豊かな自然や古い文化が残され、大切に守られてきている。しかし、過疎化が進み子どもたちの数も年々減ってきているのも事実である。

このような状況のなか学校においても、田原小中一貫教育校としての9年間の長いスパンの中で、子供たちを見守り、地域とのつながりを大切にした「ひと・もの・こと」から、ふるさとや自然を愛する心を育てる取り組みをすすめることが大切であると考える。

2. 取組の概要**【環境美化活動】**

田原地区では豊かな自然が残され、大切に守られてきている。地区内には山や川、池もあり自然にあふれているが、ほっておくと雑草や樹木が伸



びて、子どもたちの通学に影響が出るほど成長する。学校の付近の道路は、比較的交通量も多くゴミもたくさん捨てられている。環境美化と地域の

方との交流を兼ねて、春と秋に通学路清掃を行っている。

【伝統文化の継承】

田原では豊かな自然や古い文化が残され、大切に守られてきている。田原小中学校では、地域の歴史と伝統のよさに気づき、自分たちの町を愛し、郷土に暮らすことに誇りと喜びを感じることでできる子どもの育成を目指している。そのためにも、教員だけでは教えきれない地域に伝わる文化や伝統を次世代に受け継ぎ、伝えていくためにも地域の方々の力は欠かせないと考えられる。

子どもたちにも気軽に取り組めるような体験的な活動を中心に、保護者・地域・お年寄りの方



などから伝統芸能や、昔遊びを教えていただいた。具体的には、幼小中合同運動会に向けての祭文踊りの練習や本番での祭文踊り、新年集会での千本づきによる餅つき、小学生の総合学習や生活科での校区探検、調べ学習などである。

3. 成果と課題

体験活動を通して、地域、お年寄りの方などとの交流の場を多くもつことができ、様々なものの考え方や、生き方にふれることができた。田原の自然や、文化や伝統を守り、郷土を大切にしていこうという気持ちが育ってきている。また、地域の方と交流を深めることにより、挨拶や言葉遣い、態度などの礼儀やマナーが身につき、社会のルールを学ぶことができた。

事業名

田原シューティングスタープラン

目標

遊びの充実を図るとともに、様々な環境をとおして子どもの願いが実現できるようにする

1. 取組の視点

子どもたちの願いが実現できる環境作りをする中で、遊びの充実を図り、子ども達の考える力や試す力、自尊感情などを育てる。

いろいろな描画材料を使ってダイナミックに活動し、表現する喜びを味わう。

栽培活動を通して、育てる楽しさ、自然の不思議さ、収穫の喜び、食への関心などを育む。

地域の文化に触れ、様々な感動体験する中で、地域の方々との楽しいふれあいを行う。

図書を充実させ、絵本の楽しさ、友達と共に見る喜びを味わう。

2. 取組の概要

子ども達がお弁当の後、友達と十分に遊び込めるドミノの玩具を購入した事により、コースを作って楽しみました。遊びの途中で、片付けの時間になった場合は、子どもの遊び部屋であるシューティングスタールームに作ったコースをそのまま残した。明日への期待を抱いて遊びが続き、その中で子どもたちは、試行錯誤を繰り返しながらみんなで遊ぶ喜びを満喫したように思う。また園内子ども作品展でもドミノの道を作り、見に来てくれた人にも遊ぶ事ができるようにした。来場の



小・中学生も嬉々として遊び、楽しい参加型の作品展となりました。また作品をダイナミックに描けるように大きな筆などを購入した事で子ども達はのびのびと制作する事ができた。描いた絵も額に入れ展示した。そうする事で子どもはよりうれしさを感じた。

また 180 人程の観客の感想文も見ることができ自尊感情の助長に繋がったと考える。

本年度は、大型絵本も購入し、2人という少人数でも一緒に絵本を見る楽しさを味わえたように思う。栽培活動では、花壇やプランターを畑にしていたので、地域の方に依頼して畑を作り野菜



を植えた。子どもたちと共に考えた様々な苗や種を購入し育てる事で自然の不思議さ、収穫の喜び、食への関心が培われた。園児2名という現状のため、人とかかわりが少しでも充実できたらと地域の人材・地域の文化・地域の自然等に積極的にかかわり、せんべい教室・茶道教室・田原太鼓教室などに参加できた事は子どもたちにとってかけがえのない経験となり有意義であった。

3. 成果と課題

子どもたちが望ましい成長をするように遊びの充実や自然環境、人間関係、表現活動の充実を図るため様々な環境を整えた。その事により子ども達は積極的になり達成感や明日への期待をもって行動するようになってきている。また自尊感情の芽生えも培われてきている事は今年度の成果と考える。しかし園児数の少なさは、本園の課題である。